

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立みなら特別支援学校(本校・松山城北分校)

51

評価実施日		令和3年3月9日(火)	
	氏名	所属等	備考
委員	伊藤 剛志	社会福祉法人 馴鹿(となかい) トナカイ福祉交流館あい 施設長	学校評議員
	池川 良徳	東温市見奈良区長	学校評議員
	恒岡夕貴子	有限会社 松山サービス ジョブコーチ	学校評議員
	前園 俊恵	法蓮寺住職	学校評議員
	永井 裕二	社会福祉法人 松山手をつなぐ育成会 生活介護事業所 つくし園 管理者	学校評議員
	本山 有香	PTA会長	
	日野林茜子	PTA副会長	
	森本 陽子	PTA会長(分校)	
	榎岡 奈々	PTA副会長(分校)	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>○各教科等を合わせた指導の充実について 高等部生徒用アンケートがA型、B型と分かれている。その違いはなにか。A型、B型別のアンケートは、いつから分かれているか。産業科の生徒で、教科の授業が「分かりにくい」という数値が増えている。指導の充実に努めてほしい。</p> <p>○学校生活の充実について 城北分校の伊予万歳について、コロナ禍で1年、2年と間が空いてしまうと、公民館利用者の年齢の高齢化により継承が難しくなることを危惧している。城北分校の目玉であり、今後もぜひ、続けてほしい。</p>	<p>○各教科等を合わせた指導の充実について 高等部普通科は、習熟度別に授業を行い多様な子供たちが学習しやすい形をとっている。A型は、教科別の指導と作業学習が柱で、就職等を目指している生徒が在籍している。B型は、日常生活の指導や生活単元学習等の各教科等を合わせた指導を中心に授業を行っており、それぞれの実態に応じた目標を立て、個に応じた授業に取り組んでいる。習熟度別に授業を行うことで、多様な子供たちが学習しやすい形をとっている。アンケートについては、6年前よりA型B型に分かれて実施している。産業科の結果については真摯に受け止め、分かりやすい授業やICTを活用した授業を行う等、指導の充実に努めたい。(本校)</p> <p>○校内においては、1年生が主に伊予万歳を行い、教員も関わっている。知っている人間がだれもいなくなることはない。万が一に備えて録画をしたり、先輩から教えてもらったりすることで存続していきたい。高齢化で継承できなくなることは想定してなかったため地域の公民館長とも連携し、実践したい。(松山城北分校)</p>

○進路支援について

就職者について、きめ細やかなサポートを行ってほしい。コロナ禍で、子供たちもストレスも溜まっていると思う。心のケアと同時に、離職者の支援もしっかりと行ってほしい。コロナが落ち着けば、事業所見学等を積極的に受け入れるなど、我々もできるかぎり協力したい。

○センター的機能の充実について

資料に警察学校の体験とある。授業をいっしょにやっているのか。警察官を何人か知っているが、知的障がいの方について、分かっているようで理解力のところで通じ合えないことがある。障がいのある子が警察官に囲まれて不安定になり暴れたことがあった。警察官に、知的障がいの特性を分かってもらうために、今後も続けていただきたい。

○コロナ対策について

コロナ禍をどう乗り越えていくのか。1年後か2年後か、それに向かって先生方も大変だと思うが、頑張ってもらいたい。城北分校では、臨時休業はなかった。本校は4回臨時休業があったが、情報を少しでもだしてもらえると、安心する。検討いただきたい。

○進路支援について

・事業所等合同説明会を始め、様々な行事が中止になる中、進路については産業現場等における実習を含めて可能な限り実施をしてきた。離職した卒業生もいるので、就労支援コーディネーターや関係機関と連携し、アフターフォローに努めるとともに、再就職の支援等も行っていきたい。(本校)

○働き方改革について

・警察学校の実習を年に2回受け入れている。授業に2時間入り、児童生徒と触れ合いながら、支援をするという経験を積んでいる。その後、発達障がいについての講義も行っている。講義後の質疑応答では、たくさんの質問があり、実体験を踏まえて丁寧に応えるようにしている。警察官への実習を含め、今後もセンター的機能の充実に努めていきたい。(本校)

○陽性者が特定されてしまう恐れがあり、県知事も会見の中で、特定をしないでほしいと呼び掛けている。最初に雇った人に負担が掛かる。できるかぎり公表してほしいという意見をいただくが、必要なところのみに連絡がいく形になっている。一斉休校は行わない方針のため、負担は少なくなるとは思うが、今後も検討をしていきたい。(本校)